



WoodyValleyパラグライダーハーネスは3年間保証付きです！！

ウッディーバレーハーネスについてオンラインカスタマー登録をいただいたお客様に、3年間保証をさせていただきます。

保証内容	* 通常使用による保証期間 : 3年 * クラッシュを含む使用状況を問わない保証期間 : 1年 (パーツ代や交換品については実費となります)
保障対象外パーツ	(下記のパーツ及び部分については保証外・実費修理となります。) * ポッドハーネスのつま先部分(地面との摩耗部分) * ネオプレーンゴム部分 * ジッパー * 超軽量ポッドハーネス GTO ライトの頭部インフレーション部分 * ハーネス本体以外の部品(カラビナ・プロテクション・成形用アクリル板(レキサン)・フットバー等 修理に際しての往復送料については、お客様負担とさせていただきます。



flight since 1977
Sports Opa Kite

(株)スポーツオーパカイト

東京 :
1900

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-24-15

TEL: 03-3291-0802

<http://www.opa.co.jp/>

メンテナンス部: 〒315-0101 茨城県石岡市大増

〒315-0101 茨城県石岡市大増 1900

TEL: 0299-44-3642 FAX: 0299-44-3939

email: itajiki@opa.co.jp

THANK YOU !

この度はウッディーバレー社の製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。この取扱説明書には重要な内容は記載されていますので、よく読んでください。特に最重要の2点について御注意ください。

緊急パラシュートの装填

あなたは緊急パラシュートによって命を救われるかも知れないのです。それは2日後に起きる事もあり得るし2年後かも知れません。いざと言うときに確実に役立つように取り扱しましょう。

ハーネスの調整

ハーネスはパラグライダーとパイロットをつなげる道具であり、フライトの楽しさと性能を最高に引き出すことのできる大切な存在です。出来の悪いハーネスでも最高の調整がなされていれば良いフライトを楽しむことができます。しかしどんなに良いハーネスでも調整が悪いと飛べたものではないのです。

このハーネスによってパイロットの皆様が、快適に飛び、楽にコントロールし、性能を引き出し、フライトの喜びを存分に味わえるようになることを確信しています。取扱説明書を読むのは退屈な作業かも知れませんが、パラグライダーハーネスは身近な家電製品などとは違います。正しい使用方法を理解していただいて事故のリスクを減らしてください。この取扱説明書には、あなたのハーネスの組立、調整、飛行、収納に必要な情報が全て入っています。自分の装備について漏れのない知識を持つことによって、パイロットの安全と飛行レベルは確実に向上します。

セーフティー ノート～安全に関するお知らせ

ウッディーバレー社のパラグライダー機材を購入していただくに当たって、購入者は適切なパイロット技量を認定されたパラグライダーパイロットであることを自ら認め、負傷ないし死亡を含むパラグライダー活動に伴う全ての危険性を引き受けられたものとします。ウッディーバレー社のパラグライダー機材の不正確あるいは不適切な使用はこれらの危険性を高めます。いかなる場合においても、ウッディーバレー社およびウッディーバレー社製品取り扱い店は、ウッディーバレー社のパラグライダー機材使用に関連したパイロット本人あるいは第三者の負傷、あるいはいかなるタイプの損失についても、責任を持つものではありません。ウッディーバレー社のパラグライダー機材の使用に関してのお尋ねは、まずご購入先かあなたの国の輸入店までお願いいたします。

ウッディーバレー社が発表しているGTOライトの取り扱いに関する動画もご参照ください。

FEATURES（概説）https://www.youtube.com/watch?time_continue=2&v=FN2R6dANN24

MANUAL（使い方）https://www.youtube.com/watch?time_continue=1&v=QeXty5e280I

PARACHUTE INSTALLATION（パラシュート装填）https://www.youtube.com/watch?v=H_1csaMYmcl

LEG COVER INSTALLATION（レッグカバー取り付け）<https://www.youtube.com/watch?v=bdsVpmqBGvE>

Woody Valley

危険・警告

- 1) 安全に正しくお使いになるために、ご使用前に必ずこの取り扱い説明書を最後までよくお読みになった上で、指示内容を守ってお使い下さい。
- 2) 本ハーネスはパラグライダー専用ハーネスです。その他の目的で使用しないでください。
- 3) 本ハーネスは改善等の為、予告なしに仕様・価格等を変更する場合があります。

INDEX

1- 一般情報	4
1.1-コンセプト	4
1.2-GTOライトのプロテクション	4
1.3-セーフティーロックシステム	5
1.4-SOSラベル	5
2-ハーネス使用の前に	6
2.1-ハーネスの着方	6
2.2-緊急パラシュート	6
2.2.1-ハンドル付きデプロイメントバッグ	6
2.2.2-緊急パラシュートのハーネスへの取り付け	7
2.2.3-緊急パラシュートの装填	8
2.2.4-緊急パラシュート開傘操作	10
2.2.5-背中 of 収納ポケット	11
2.3-ハーネス調整	12
2.3.1-シートとバックポジションの調整	13
2.3.2-肩パッドの調整	14
2.3.3-胸ベルトの調整	15
2.3.4- レッグカバーの調整	15
2.3.5-スピードバーの調整	16
2.3.6-ピーチューブ	16
3-GTOライトでのフライト	17
3.1-プレフライトチェック	17
3.2- ポケット	17
3.3-ウォーターバッグ	18
3.4-コックピットの使用	18
3.5-下部のテント/バラストホルダーポケット	19
3.6-アンチGドラッグパラシュート	19
3.7-バックプロテクション	20
3.8-水上でのフライト	21
3.9-トーイングフック	21
3.10-GTOライトでのランディング	21
3.11-ハーネスの廃棄	21
3.12-自然環境における活動への注意	21
3.13-タンデム	21
4-ハーネスの収納	22
5-オプションの内容と取り付け	23
5.1-バラストコンテナ	23
5.2-ライトセルバッグ	23
5.3-リュックサック	23
6-メンテナンスと修理	24
6.1-サイドスラット（空気取り入れ口補強版）の交換	25
6.2-バックプロテクションの定期点検	25
6.3-レッグカバーの交換	26
7-テクニカルデータ	26

1ー 一般情報

この装備に含まれるのは:

- ハーネス
- カーボン製足プレート
- カラビナ2個
- ハンドル付き緊急パラシュートデプロイメントバッグ
- 緊急パラシュートコンテナ閉鎖用バンジーループ(予備2個)
- 3段ライトスピードバー
- ライトシールドプロテクション
- バックプロテクション
- ジッパー付レッグカバー
- 空気取り入れ口用マイラー2枚

主なオプション:

- リュックサック
- セルバッグライト
- バラストバッグ(キャリングハンドル・チューブ・排出弁付き)
- アンチGドラッグパラシュート

1.1 コンセプト

GTOライトは、最大重量 120 kgまでで飛行するスポーツパラグライディング用のハーネスとして使用するように設計されています。このハーネスは、ウッディーバレー社の長年に渡るクロスカントリー用ハーネスの経験の究極の成果です。GTOライトは、快適性、操作性、空気力学的洗練を犠牲にすることなく軽量であることを高いレベルで求める全てのパイロットの要求に応えるよう設計されました。オプション設定のアンチGドラッグパラシュート用のポケットと、脚ベルト締め忘れ防止のセーフティシステムを装備しています。

1.2 GTOライトのプロテクション

GTOライトは2種類のプロテクションを装備しています。

- ・座面の下に、厚さ 16 cmのLTF規準フォームのプロテクション
- ・EUスタンダード 89/686/ECCに基づいてTUV/GSカテゴリー2 の認証を受けたライトシールド。パイロットの背中の中上部を守ります。これは認証試験の結果に影響しないため、ベース部とポケット部の間にある背部のジッパーを開けて、取り外すことができます。



1. 3 セーフティーロックシステム

胸ベルトや脚ベルトの閉め忘れの問題に対処するために、ウッディーバレー社が開発したレッグカバークローズシステムです。このシステムでは、パイロットは脚ベルトを手でつかまなければならない、締め忘れ防止になります。



1. 4 SOSラベル

この赤地に白文字のラベルは肩ベルトのパッド部にあるポケットに入っていて、すぐ見えるようになっています。簡単に取り出せ、紛失防止のためヒモでハーネスに取り付けられています。そしてこのラベルの裏面に、事故救出時に必要となる緊急情報を記入しておくことができます。

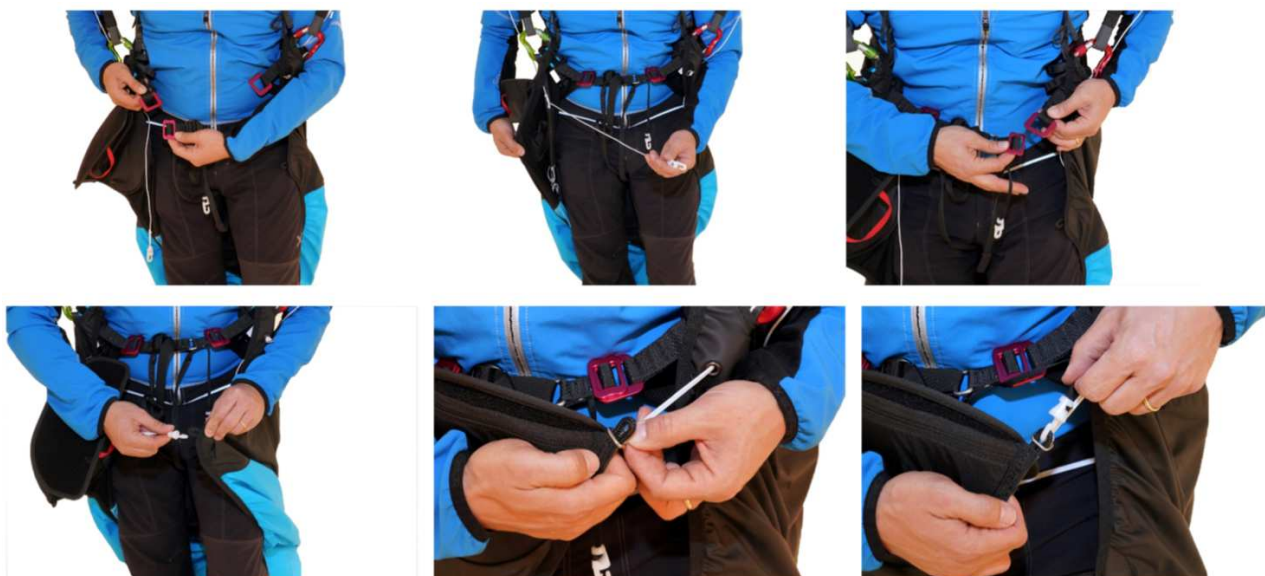


2- ハーネス使用の前に

GTOライトはバックプロテクションとライトシールドをメーカーで装着した状態で出荷されます。緊急パラシュートの装着は、認定インストラクターなどの然るべきプロの手によって十分な注意のもとに実施されなければなりません。それが完了するまでは、パイロットに合わせたハーネス調整は行なわないでください。

2.1 ハーネスの着方

肩ベルトに両腕を通し、脚ベルトを引き出してその赤いバックルを左右の脇から伸びているバックルに差し入れます。右側に付いている白いフックを、左側のライクラ伸縮素材に付いている黒いループに取り付けます。計器パネルの端に付いている黒いループを、左のカラビナの近くにある四角い金属金具の中に通し、左側の脚ベルトのバックルの個所から伸びている白いフックをこの黒いループに取り付けて、四角い金具を固定します。



2.2 緊急パラシュート

GTOライトの緊急パラシュートコンテナは、座面の下側でバックプロテクションのすぐ後ろに位置します。緊急パラシュートは、必ずハーネス一体型のコンテナへ装填する前にハーネスへの接続を行ってください。

接続システムは2本のブライダルを肩の高さの個所に取り付けていることで、パラシュート開傘時の良好な荷重分散と適切な着地姿勢を可能にし、負傷のリスクを最小にしています。このブライダルのセンターループ部にパラシュートを接続してください。

2.2.1 ハンドル付きデプロイメントバッグ

GTOライトは、ハンドルが専用デプロイメントバッグに取り付けられた状態で出荷されます。これ以外のデプロイメントバッグやハンドルは使用しないでください。ハーネスへの装填では、ハンドルがデプロイメントバッグにつながっている箇所が、(ラシュートポケットに対して)上向きで外向きになるようにしてください。



2. 2. 2 緊急パラシュートのハーネスへの取り付け

緊急パラシュート側のブライダルをハーネス側のブライダルへ接続するには、3つの方法があります。

接続方法その1

2,400kg以上の破壊強度を持つねじロック型のカラビナを使用する方法。この場合、ブライダルに対してカラビナが回って横を向かないよう、ゴムバンドを用いて、ブライダルがずれないように固定します。カラビナのねじロックはしっかりと締め、緩んできて開くことのないようにしてください。この方法は次に述べる方法よりも高い開傘ショックに耐え、最もお勧めできる接続方法です。



接続方法その2

まず緊急パラシュート側のブライダルの端のループの中にハーネス側のブライダルを通し、つぎに緊急パラシュート本体をこのハーネス側のブライダルの大きなループの中にくぐらせていき、2つのブライダルを引き絞って接続する方法。開傘ショックで合成繊維製のブライダル同士で摩擦が発生して破壊しないよう、出来るだけしっかりと引き絞ってください。



接続方法その3

もし御使用の緊急パラシュートが操縦可能なもので2本ブライダルをもっているか、いずれにしても2本ライザーブライダルを装備しているものでしたら、肩ベルトの近くにあるハーネス側のブライダルの付根にある2つのループへ接続することが出来ます。この場合、ハーネス側のブライダルは、使用しないので、折りたたんで2本のゴムバンドで縛り、パイロットの首の後ろにあるカバーの下に収納してください。

2箇所のブライダル接続にはそれぞれ 1,400kg以上の破壊強度を持つねじロック型カラビナを使用してください。また、パラシュートをハーネスに装填した状態で緊急パラシュートのブライダルの長さが取付け点まで十分な長さを持ち、パラシュートをコンテナから引き出すさいに間違っ途中でパラシュートが開傘しないか、をチェックすることが重要です。

重要:

横方向の異常な荷重負担を避けるため、どちらか1つのループだけでなく、ブライダルは必ず肩ベルトの2つのループへそれぞれ接続してください。



2. 2. 3 緊急パラシュートの装填

ハーネスのブライダルが中を通っているサイドジッパーのスライダーを、ハーネスの一番上、パイロットの首の後ろ側に当たる位置のライクラ伸縮素材製の小さなカバーまで閉じておきます。

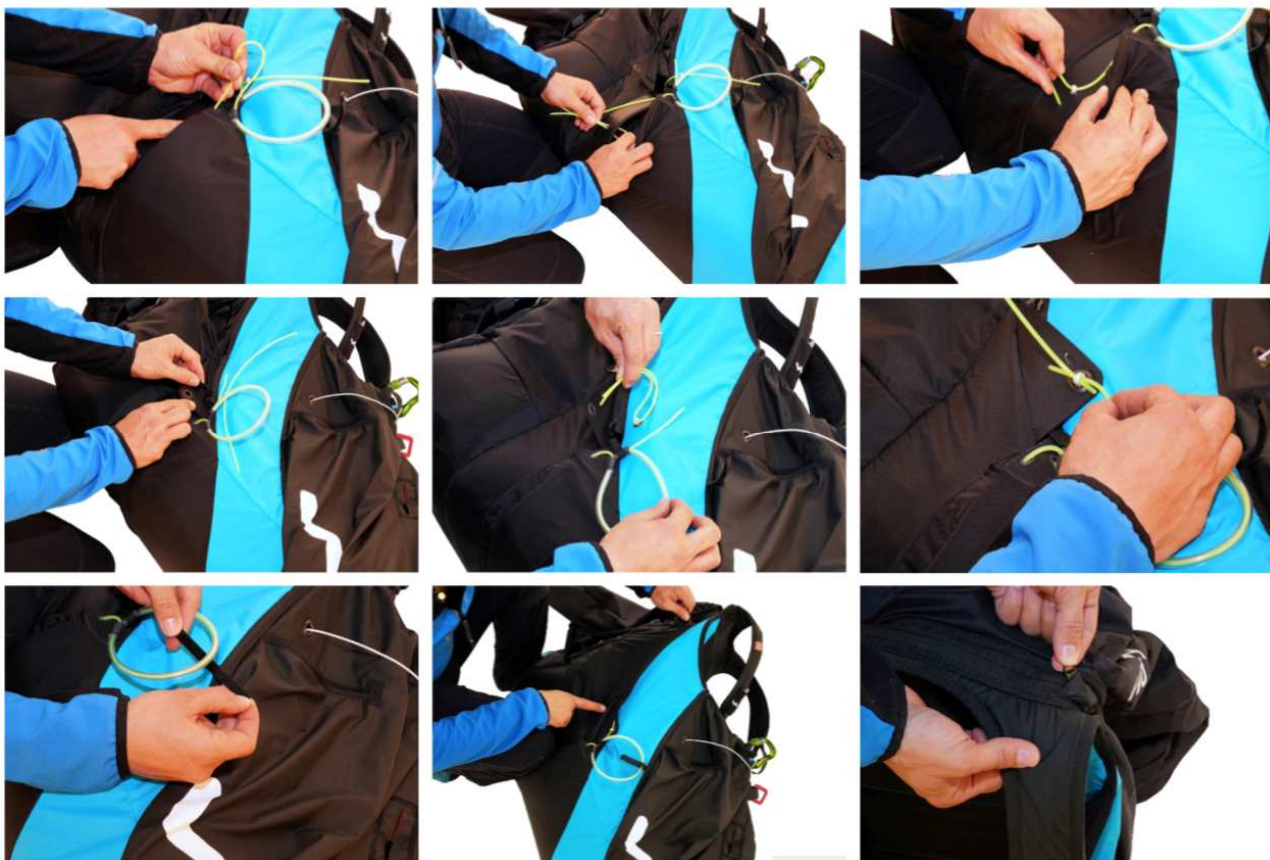
次にジッパーを緊急パラシュートコンテナ側から割って開け、ブライダルの通り道が開いているようにします。先に述べた3つの接続方法の1つでハーネス側と緊急パラシュート側ブライダルを接続します。コンテナを閉じる作業の準備で、パラグライダーのラインなどの細いひもを用意し、2本あるバンジーループに通しておきます。

バンジーループを所定のポケットに入れて、小さなハトメに通しておきます。緊急パラシュートを、ハンドルが上側に来て、緊急パラシュートのラインがハーネスのテール側に来るようにして、ハーネスのコンテナへ挿入します。ハンドルの小さなループ部を対応する収納部へ挿入してください。



大きな黒色のプラスチック製フラップを、細いラインを使って閉じて、長い方のピンを使ってバンジーコードを留めます。これは、まずハンドルループ挿入口のすぐ下にある穴に長いピンを通し、次に引き出したバンジーループの中を通し、さらにその先に位置する穴へ通します。補助に使った細いラインを取り除いてください。

ブライダルの通り道をカバーするジッパーのスライダーを、ハンドル側のエンドまでずらせてから 10 cm 閉じます。小さなフラップともう 1 本のバンジーループを使って、その上をカバーし、引き出したバンジーループをハンドルの短い方のピンで留めます。短いピンの先はその先の穴へ入れてください。補助に使った細いラインを取り除いてください。小さいフラップの下の方のジッパーを割って開けたら、ジッパーを肩のライクラ伸縮素材製の小さなカバーまで閉じてください。ハンドルループ部上端をハーネスの細いベルクロで留めてください。



2 本のバンジーコードの作業で使った補助の細いラインは、作業が終わったら必ず抜いてください。また、その際に、バンジーループを摩擦で傷めないように注意深くゆっくりと引き抜いていってください。



注意：

その緊急パラシュートとハーネスあるいは外付けコンテナを組み合わせるのが初めての場合は、必ず公認のハーネスあるいは緊急パラシュートのディーラー、あるいはパラグライダーインストラクターによって、ちゃんと開傘することを点検してもらってください。チェックはフライトシミュレーターにぶら下がって行います。通常の飛行姿勢からの緊急パラシュートの開傘操作では、何らの支障無くスムーズに行なえなければなりません。

パラグライダー用ハーネスおよびその緊急パラシュート開傘システムは、自由落下やそのほか強い衝撃には対応していません。その負荷構造は、パラグライダーで通常に想定されている開傘ショックの基準にもとづいて設計・試験・認定されているからです。

さらにこのことは、通常の開傘ショックに対してもハーネスが全く損傷しないという事も意味していません。実際には、事故によって必要となった開傘だけでなく、安全訓練における自発的な開傘においても損傷が発生する場合があります。

2. 2. 4 緊急パラシュート開傘操作

緊急時にすぐに確実にハンドルを握れるよう、普段のフライト中に定期的にパラシュートハンドルを触ってその位置を憶えておくことはとても重要です。緊急時の開傘手順は以下の通りです。

- ・緊急パラシュートハンドルを見て、片手でしっかりと掴む。
- ・ハーネスコンテナから緊急パラシュートを引き出すために、外側に向かってハンドルを引く。
- ・障害物のない空間を確認し、連続した動きで緊急パラシュートをパイロットおよびパラグライダーから離れた方向へ投げる。
- ・緊急パラシュートが開いたら、機体をつぶしてパラシュートに絡まないようにするために、少なくとも1本のDライン、あるいはブレイクラインを掴んでパラグライダーを引き込む。着地時には、負傷のリスクを出来るだけ減らすために、体を起こしておき、PLF(5点接地パラシュートランディングフォール)が行なえるようにする。

2. 2. 5 背中の収納ポケット

背中内部の収納ポケットを使用するには、収納作業がしやすいよう、まずハーネス後部の空気力学整形パートにあるジッパーを全部開けてください。この収納部はリュックサックや寝袋の収納ができるように注意深くサイズ設計されています。また、収納部には2つの小さなポケットがあり、それぞれウォーターバグとトレッキングポールの収納に使用できます。収納ポケットと空気力学整形パートのそれぞれのジッパーを忘れずに閉じてください。



重要:

- ・ハーネスの空気力学整形パートが正しく膨らまなくなる恐れがあるので、背部収納ポケットに荷物を入れ過ぎないようにして下さい。
- ・コンテナの形がゆがまないよう、収納ポケット内の荷物は均等になるように入れて下さい。
- ・正しく膨らむよう、ハーネスの空気力学整形パートのジッパーがちゃんと閉じられていることを確認してください。

2. 3 ハーネス調整



1. 荷重受け持ちベルト……………
2. 背中調整ベルト……………2. 3. 1章
3. 座り深さ調整ベルト……………2. 3. 1章
4. 脚角度調整ベルト……………2. 3. 1章
5. 肩調整ベルト……………2. 3. 2章
6. 胸調整ベルト……………2. 3. 3章
7. 脚ベルト……………
8. ABSベルト……………
9. フロントカバーライン……………2. 3. 3章
10. セーフティーシステム……………1. 3章
11. フットレスト調整ベルト ……2. 3. 3章

GTOライトは納品時にすでに標準的なセッティングが施されていますが、パイロットの身長に合わせた調整が必要です。初フライトのさい、まず他のセッティングは変えずに身長にあわせた調整だけを行ってください。ファクトリーセッティングはほとんどのパイロットにとって満足のいくものであることが実証されています。もし他の調整へ変える場合も、全ての調整ベルトに参考となる赤い印がついていますので、簡単にファクトリーセッティングに戻すことができます。



GTOライトのサイズは、シートの幅でなく、パイロットの身長によって選定してください。このハーネスでは、背もたれ部の高さが居住性に影響しない基本的な座った姿勢のハーネスとは異なり、パイロットはより寝た姿勢となるので、居住性や正しい飛行姿勢を得るうえでバックサポート部の高さがとても大切になっています。そこで、シート幅を気にすることなく、シートバックの高さに合わせたサイズ選びが特に重要になっているのです。

最良のセッティングを得るためには、バックポケットに飛行時と同じ携行装備を入れたうえで適切なシミュレーターを用いてぶら下がり、調整してください。

重要:

- 調整を行う前にまず緊急パラシュートをハーネスに装填してください。
- 調整は必ず左右均等に行ってください。
- 全ての調整ベルトはピンと張っているようにして下さい。

2. 3. 1 シートとバックポジションの調整

この写真は「横方向」の調整の構成を示していて、背中上部から腰に至るまで多くのポイントでパイロットがしっかりと支えられています。これらの調整要素によってパイロットがしっかりと支えられ、あらゆる背中タイプに対応するセッティング調整が可能です。



左下の写真で、

調整点①は、パイロットの太ももと背中中の角度(シートの深さ)を変えることで座面と腰にかかる重さを配分して居住性を追及できます。

調整点②は、背中中の角度を変更して、上体の角度(垂直に対して)を主に変えるのに用います。

調整点③は、脚の角度を変えます。

調整の変更には、まず上側に来ているベルトを緩め、下側で調整したら、また上側も締めなおしてください。



2.3.2 肩ベルトの調整

肩ベルトを調整することでハーネスをパイロットの身長に合わせます。その調整バックルは肩ベルトの頂部にあります。また、肩ベルトはパイロットの上体の重さも一部サポートして居住性を向上させています。シート部と背中部分の配分調整が決まったら肩ベルトを調整し、肩に対してベルトが当たっていて、緩すぎたりきつすぎたりしないようにして下さい。



2. 3. 3 胸ベルトの調整

胸ベルトで2つのカラビナ間の距離を最大 50 cmまでで調整できます。GTOライトで初めて飛ぶときは胸ベルトを真ん中の調整にしておき、飛びながら少しずつ調整していった好みの長さを見つけていってください。胸ベルトが短く、きついほど安定性が高くなります。カラビナ間の距離を広げ過ぎてもパラグライダーの操作性は向上しません。また、狭くし過ぎた場合、非対称つぶれからのツイスト傾向を悪化させる恐れがあります。



2. 3. 5 レッグカバーの調整

このレッグカバーは、特別な超軽量の防風・防水のライクラ素材で出来ています。その自動クローズシステムの卓抜なライン設計によって、離陸後に脚を入れるのがさらに楽になっています。このレッグカバーは両サイドでちょうど足首の上の位置に来るバックルで、長さ方向が調整可能です。左右均等に注意しながら長さ調整を行ってください。



2. 3. 5 スピードバーの調整

GTOライトは3段スピードバーが標準装備されています。スピードバーシステムの長さ調整は、まずハーネスの調整がしっかり完了してから行なってください。スピードバーの調整を正確に行うには、シミュレーターにぶら下がって飛行姿勢をとり、パラグライダーのライザーを接続し、他の人にライザーを持ち上げてもらって、スピードバーストラップの長さを調整してください。ヒモを短くし過ぎるとスピードシステムが常に引かれた状態になり、飛行中に意図せずに作動してしまう恐れがあります。はじめのフライトではスピードバーをやや長めにしておいてフライトごとに少しずつ短くしていくのが安全です。また、調整の際は、左右均等に行うよう注意してください。

フットレストの変更を希望される場合、ライクラ製のカバーを傷めるような硬い素材のスピードバーは使用しないようご注意ください。

フットレストから伸びるヒモは、座板の後ろ角近くにあるプーリーを経て上へ向かい、レッグカバーの小さなハトメ穴を通して、パラグライダーのライザーにある取り付けポイントへつなげます。なお、付属の2本のゴムヒモは必ず使用してください。このゴムヒモをフットレストの下側にある2つのループに結んでおくことでスピードシステムが常に適切に伸ばされ、すぐに使える状態を保ちます。



2. 3. 6 ピーチューブ

ハーネス左サイドのブルーの部分にピーチューブを通す穴があります。



3ー GTOライトでのフライト

3.1 プレフライトチェック

安全性を最大限確保するために、プレフライトチェックは完全で漏れのない手順で、毎回フライトごとに行ってください。

確認事項:

- ・胸ベルトの2個のバックルとセーフティーロックシステムがちゃんと閉まっているか。
- ・緊急パラシュートの開傘ハンドルが正しい位置にあり、ピンがしっかりと差し込まれているか。
- ・全てのポケットとジッパーが閉じられているか。
- ・パラグライダーがハーネスに正しく接続されているか。2個のカラビナが本来のロックシステムどおりに正しくロックされ閉じているか。
- ・スピードバーがパラグライダーに正しく取り付けられているか。

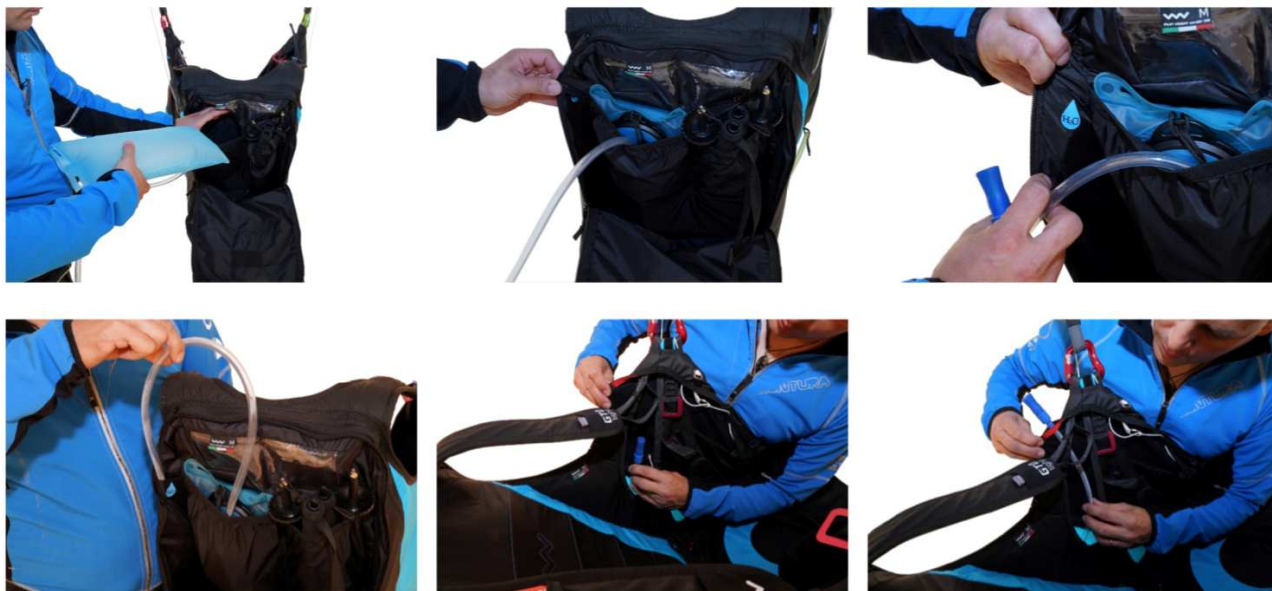
3.2 ポケット

GTOライトには背中 of 大きな収納ポケットといろいろなサイドポケットが付いています。右のメインカラビナの近くに設定されたセーフティスロットは、無線機や携帯電話を入れておくのに便利です。ほかにもとても大きな2つのサイドポケットがあります。これも便利な計器デッキは、コックピットからすぐに取り外せ、ブリーフィングに携行したりハーネス収納時に押しつぶされるのを防いだりできます。



3. 3 ウォーターバッグ

GTOライトは飲料水バッグの使用も考慮しています。背中中の収納コンテナ部の中にウォーターバッグ専用ポケットがあります。水チューブを「H2O」ロゴで表示された専用の穴に通し、写真に示されるように、もう1つの「H2O」ロゴのある、左側のカラビナ近くでライクラ製カバーの内側に取り付けられている赤いベルトにかけてください。



3. 4 コックピットの使用

コックピットはレッグカバーに一体で組み込まれており、取り外し可能な計器の取付デッキが付きます。



3. 4 下部のテント/バラストホルダーポケット

GTOライトは座面の下にもジッパー付き収納部があり、1人用テントと超軽量インフレーターブルマットレス、あるいはバラストバッグが収納できます。



3. 6 アンチGドラッグシュート

「アンチG」ドラッグパラシュートは、スパイラルダイブ中のG(遠心力)を軽減することで、より安全なスパイラル降下を可能にする安全機材です。このシステムは、とてもシンプルに使用でき、あらゆるタイプのパラグライダーに使用可能です。

GTOライトでは、フライト計器のすぐ下のフロントポケットにアンチGを収納できるようになっていて、アンチGのブライダルはハーネスの右のカラビナに取り付けます。



ドラッグシュートを正しく使用するには、ジッパーを開けて中身を取り出して投げ、右旋回でスパイラルを開始します。ドラッグシュートを使うスパイラル降下の利点は、さらに降下率が高くなることと、G(遠心力)が最大40%減少することです。スパイラルで降下して、ドラッグシュートをハンドルで効かなくして、開いているが効かなくなっているドラッグシュートと共に、普通に着陸することが出来ます。あるいは、スパイラルを止めてから、効かなくなったドラッグシュートを回収してポケットに入れなおし、ポケットにジッパーを閉じれば、また同じように使用できます。

重要:

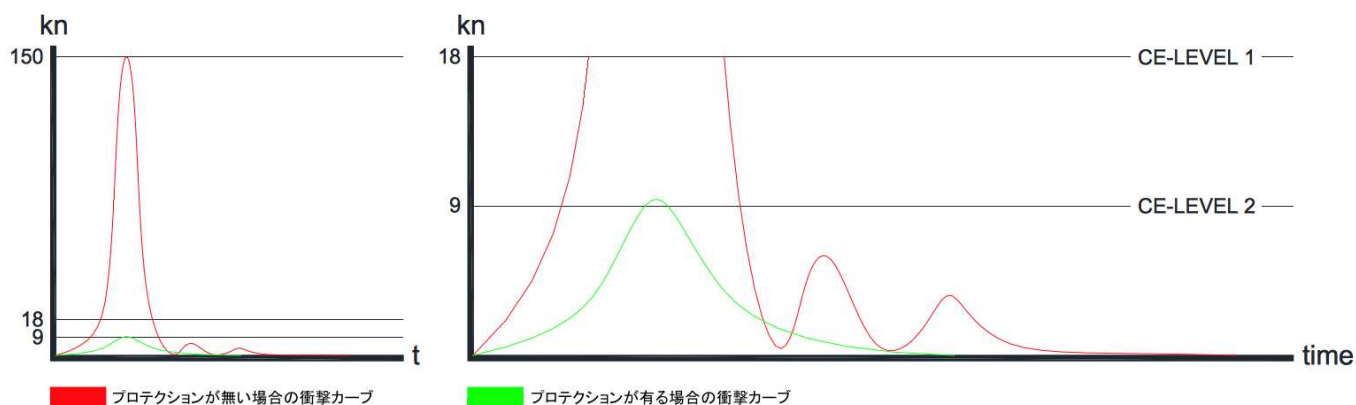
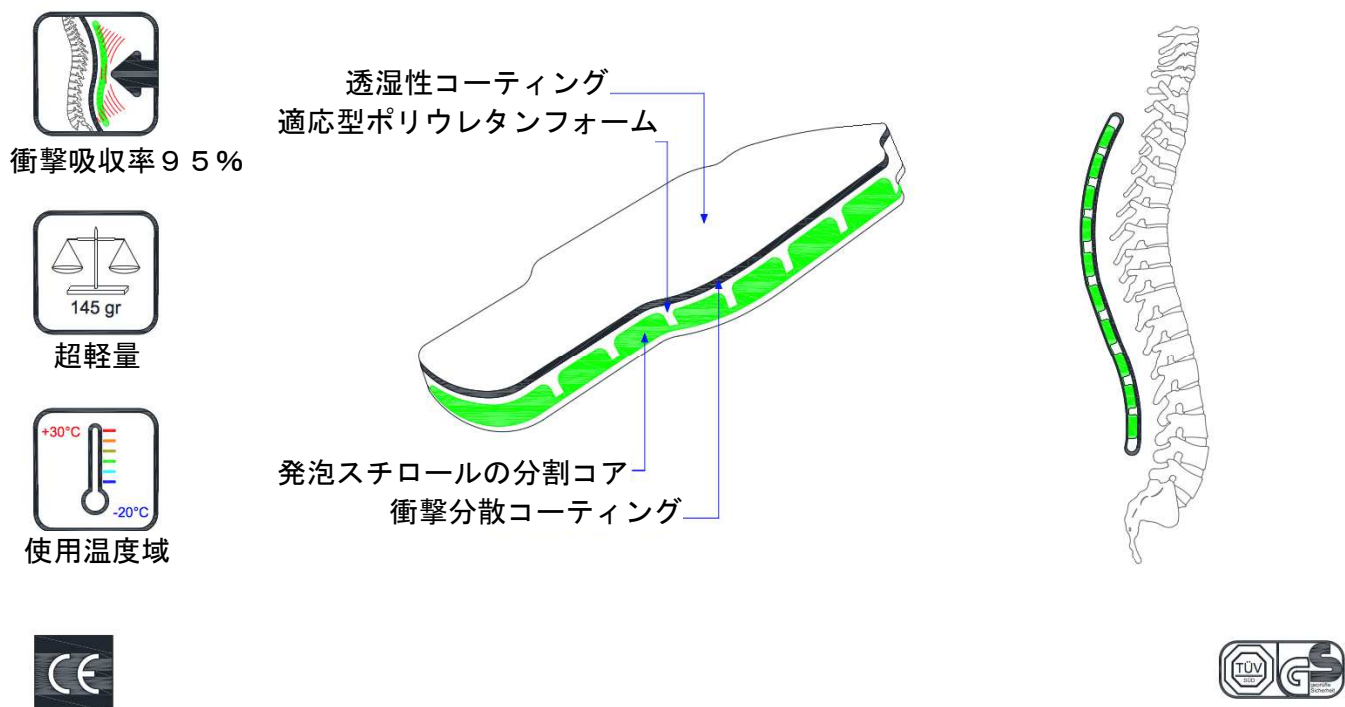
「アンチG」ドラッグパラシュートの正しい使用のために、ドラッグパラシュートの取扱説明書に記載されている説明を注意深く読んで理解しておくことが重要です。

「アンチG」ドラッグパラシュートはオプション装備となっており、別売されています。



3.7 バックプロテクション

ワニ2は、TUV（ドイツ技術検査協会）とCEの認証（レベル2）を受けた専用のバックプロテクションをリアポケット内の専用ポケットに装備することができます。



このバックプロテクションの衝撃吸収特性は、残留力わずか 9.75 kN の要求基準に達しています。これは、衝撃のほぼ 94% がこのバックプロテクションによって吸収されることを示しています。

全ての素材とその防護性能は、89/686/EWG EU 規格に基づいて TUV SUD（ドイツ技術検査協会）の認定を受け、クラス2の個人用保護具として試験の上で認証され、生産物安全性の TUV/GS 規格を達成しています。

3. 8 水上でのフライト

GTOライトでのフライトを水上で行なうこと自体に、特に問題はありません。しかし、いずれにしても水面へのランディングは常に危険です。水上でのフライトには適切なライフジャケットを装着してください。

3. 9 トーイング フック

GTOライトはトーイングによる離陸に使用できます。トーイング用ブライダルリリースは2個のメインカラビナに直接接続し、カラビナの開閉ゲートが後ろ側に来ていることを確認してください。それ以上の詳細については、トーイングリリース付属の説明書を読むかフライトエリアにいるトーイングの資格を持ったインストラクターに尋ねてください。

3. 10 GTOライトでのランディング

ランディングの前に座面から足をずらせて出して立ち上がり、スタンディング ポジションをとっておきます。決して座った姿勢では着陸しないで下さい。高レベルのパッシブ プロテクションとなるムース バック プロテクションを装備しているとは言え、これはパイロットの背骨にとってとても危険なことです。ランディング前に確実にスタンディング ポジションをとっておくことは、アクティブ セーフティーの事前準備であり、事故が発生してからの受身のパッシブ プロテクションに比べて、はるかに有効です。

3. 11 ハーネスの廃棄

パラグライダーハーネスに使用されている素材には、正しい廃棄方法が求められています。一般ゴミとして廃棄せず、地域の規則に沿った廃棄を行ってください。

3. 12 自然環境における活動への注意

スカイスports活動において環境に配慮しましょう。勝手に許可されていない場所に立ち入り、ゴミで自然を汚したり、騒音を出したりしないよう、注意しましょう。

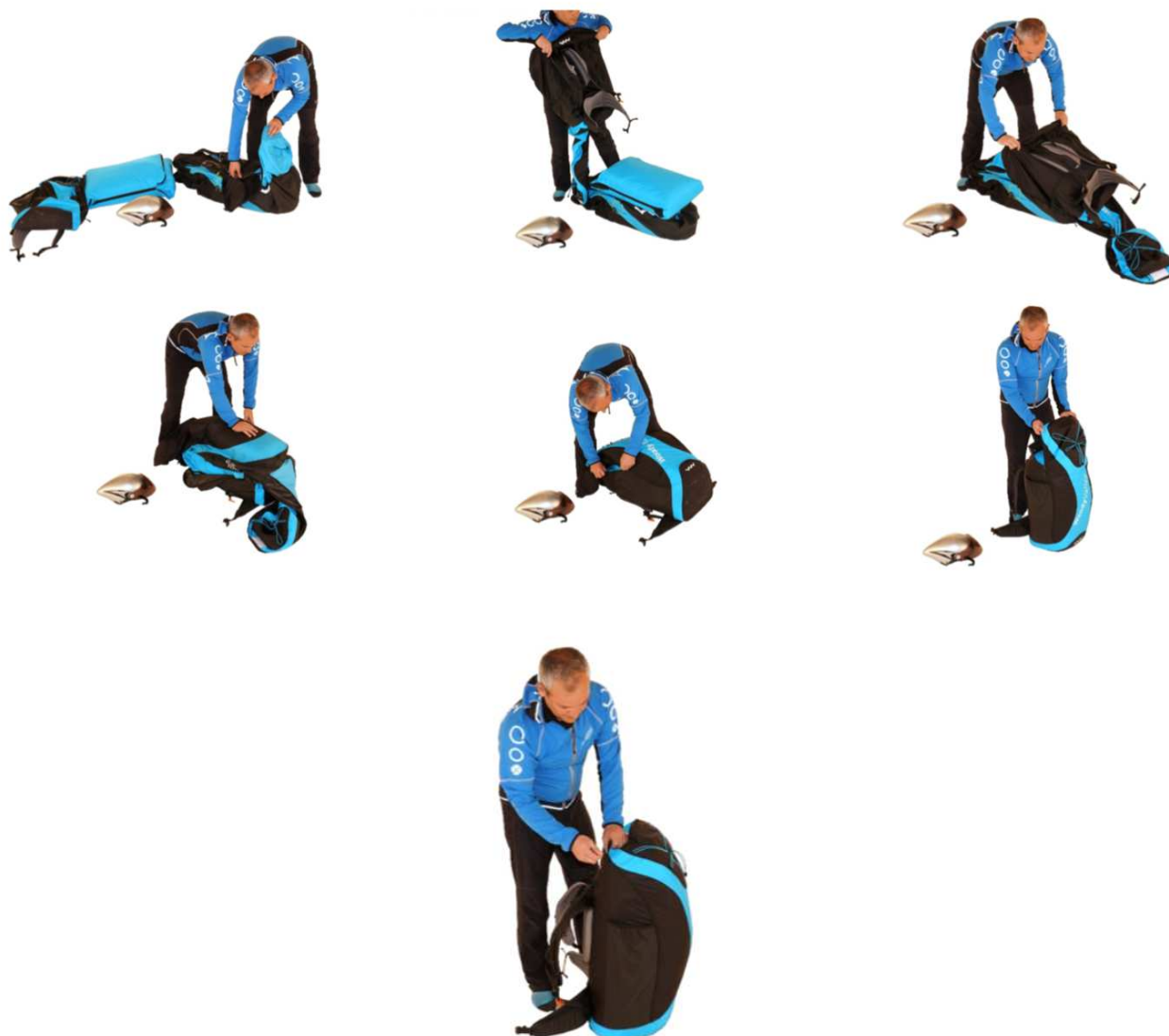
3. 13 タンデム飛行

GTOライトはタンデム飛行には、パイロット用としてもパッセンジャー用としても使用できません。

4ー ハーネスの収納

GTOライトは、パラグライダーと接続したままでも別々にたたんだ状態でも、リュックサックに収納できます。下の一連の写真を参照してください。

まずレッグカバーを折り返し、フットレストをその上に乗せたら、ハーネスの上にパラグライダーを乗せ、下からリュックサックを履かせます。



ハーネスをリュックサックに入れたら、ひっくり返してジッパーを閉じます。テールを中へ折り込みます。ハーネスに使用されている素材は、フライトの機能に影響することなく、自由に折り返すことができます。これでリュックサックの上の方に、計器やヘルメットを入れるのに十分なスペースが残ります。

5- オプションの内容と取り付け

5.1 バラストコンテナ

ウッディーバレー社純正バラストコンテナには3.8～5.7リットル(ハーネスのサイズによります)の水が入り、キャリングハンドル、バルブ付き排出チューブが付いています。座面の下のバラストホルダーに装備できます。



5.2 ライトセルバッグ

オプションで、パラグライダーの収納に便利な「ライトセルバッグ」も用意されています。重量 275gで、2つのサイドジッパーがあり、パラグライダーのパッキングボリュームを減らし、リュックサックへの収納を楽にしてくれます。



5.3 リュックサック

オプションで、ハーネス、パラグライダー、その他の装備をぴったり収納できるリュックサックも用意されています。いろいろなポケット、トレッキングポールホルダー、ウォーターバッグホルダー、便利な外付けバンジーコード製ジャケットホルダーを装備し、胸ベルトのバックルには緊急ホイッスルが付いており、とても快適で収容力があり、テイクオフまでのウォークに最適です。Sサイズ(95 リットル)、Mサイズ(105 リットル)、Lサイズ(115 リットル)、XLサイズ(120 リットル)と4 サイズあります。





6ー メンテナンスと修理

衝撃が加わったとき、着陸あるいは離陸に失敗したとき、あるいは損傷や顕著な消耗が見受けられたときは、ハーネスを点検してください。ハーネスは2年に1度、販売者に点検してもらってください。また、2年に1度メインカラビナを交換してください。

ハーネスの不要な損耗・劣化を防ぐために、地面や石、ザラザラした場所でハーネスを引きずる事は極力避けてください。本来のフライト活動以外に紫外線(直射日光)が不必要に当たらないようにしてください。できるだけ湿気や高温からハーネスを守ってあげてください。

パラグライダー機材は全て、涼しく乾燥した場所で保管し、濡れたり湿気を含んだままでは放置しないで下さい。

ハーネスはできるだけキレイに保ち、定期的にプラスチック ブラシや絞った雑巾で土を落としてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤と水で洗い、直射日光を避けて風通しの良い場所で自然乾燥させてください。

緊急パラシュートが濡れた場合(水面着陸など)は、緊急パラシュートをハーネスから取り外し、乾燥させてからリパックして空コンテナに戻して下さい。

ハーネスの修理や部品交換はパイロットではなく、ウッディーバレー社またはウッディーバレー社が認定した専門家のみが行ないます。ウッディーバレー社またはウッディーバレー社が認定した専門家だけが、認定どおりの製品の正しい機能を保つことの出来る素材と技術を持っているのです。

ジッパーは常に清潔に保ち、定期的に乾式シリコンスプレーで潤滑を保ってください。

メンテナンス作業の要望でウッディーバレー社またはウッディーバレー社が認定した専門家へご連絡、発送いただく場合は、リアポケット内の銀色のラベルに記載されている識別番号を全桁、お知らせください。

GTOライトは高性能で軽量のハーネスを実現するために、使用している素材は高品質であるとともに標準的なハーネスよりも薄手になっているので、その使用、収納にさいしては最大限の注意をお願いします。適切な使用によってハーネスの寿命は延びます。

皆様がGTOライトによって、素晴らしいフライトを楽しまれることを願います！

6. 1 サイドスラットの交換

座面のファイバーグラス製サイドスラットは、破損した際には、サイドスラットが挿入されているポケットの後ろ側から抜いて、交換することが出来ます。



6. 1 空気取り入れ口補強板の交換

空気取り入れ口のマイラー樹脂製の補強板が破損した際には、空気取り入れ口のすぐ内側にある2つのポケットに差し込まれているので、付属の予備品と交換することが出来ます。



6. 2 バックプロテクションの定期点検

クラッシュしたときは、バックプロテクションを構成している各バッグの縫い目の状態をチェックしてください。ハーネス左側にある座面の下側のジッパーを開けて、バックプロテクションを取り出してそのジッパーを開けます。3枚のポリエチレン製パネルと内臓コンテナを取り出します。内臓コンテナのジッパーも開けて中の4個のムースバッグを取り出します。これら全ての縫い目をチェックしてください。全てのチェックが完了したら、元通りに戻してください。



6. 2 レッグカバーの交換

レッグカバーはとても柔軟でとても軽量のライクラ生地で出来ています。耐久性を増すために、以下の点にご注意ください。

- ・ 尖った石やトゲのある植物のあるテイクオフでは、ハーネスを地面に置く際は慎重に行ってください。ハーネスを地面ので引きずらないでください。
- ・ 柔軟なライクラ生地を傷めるような、金属製あるいは尖った部品のあるスピードバーは使用しないでください。
- ・ ライクラ生地の表面や柔軟性に過度の負担を与えないでください。スピードバーを踏むときは水平方向に踏むようにし、靴でライクラ生地を擦りながら下向きに踏むことのないようにしてください。

GTOライトのレッグカバーはジッパーを備えていて、必要な時は交換することが出来ます。

交換の際は、下記のリンク先の動画に示される手順に従ってください。

<https://www.youtube.com/watch?v=bdsVpmqBGvE>

7ー テクニカルデータ

LTF 認定番号: EAPR-GZ-0831/18

脚ベルトシステムの形式: 座板の無いゲットアップ

バックプロテクションの形式: 16cm厚フォームプロテクション + ライトシールド(TUV カテゴリー2)

許容荷重: 120daN(約 120kg)

サイズ:	S	M	L	XL
重量(*1):	2.915kg	3.05kg	3.28kg	3.37kg
カラビナ/座板間距離:	46cm	48cm	50.5cm	52cm
カラビナ間距離:	37~50cm	40~51cm	40~51cm	40~51cm
フロントコンテナ容量:	1 リットル			
ボトムコンテナ容量:	3.8 リットル	4.5 リットル	5.3 リットル	5.7 リットル
パラシュートコンテナ容量:	3000~5000cc			
リュックサック(*2)容量:	95 リットル	105 リットル	115 リットル	120 リットル
リュックサック重量	610g	648g	660g	667g
ライトセルバッグ重量	275g			

(*1: 重量は、ハンドル付き専用デプロイメントバッグ、プロテクション、カラビナ、スピードバーを含む。)

(*2: リュックサックとライトセルバッグは、別売のオプション。)

この取扱説明書に記載の内容には万全の正確を期していますが、
記載内容はあくまで参考である事を御理解ください。

この取扱説明書は予告なく変更されるものです。GTOライトの最新の情報は、

ウッディーバレー社のホームページ

<http://www.woodyvalley.com>

あるいは、(株)スポーツオーパカイトのホームページ

<http://www.opa.co.jp>

でチェックしてください。

更新月日: 2018 年 9 月

